



平成29年5月13日（土）尼崎市制100周年記念に刊行された、尼崎市史『たどる調べる尼崎の歴史』をテキストとした第1回『尼崎市史を読む会』が開かれました。

第1部は、高橋昭裕氏（立命館大学非常勤講師）を招き、古代入門編・資料編の解説が行われました。第2部では久留島元氏（同志社大学特任講師、園田学園女子大学地域連携推進機構特別研究員）の司会のもとで高橋昭裕氏とともに辻川敦氏（尼崎市立地域研究資料館長）、大江篤教授（園田学園女子大学児童教育学科）によるパネルディスカッションが行われ、『たどる調べる尼崎の歴史』の利用や作成のコンセプトについて、話し合わ

ました。

以下参加者70名以上の中から感想を一部抜粋いたしました。

（感想1）

市制100周年に合わせて新市史ができるという聞いて、以前刊行された「図説尼崎の歴史」のようなものを想像していたのですが、今までの歴史資料とは、全く異なるものだったので、何故このような市史を作ったのかが気になって、今回の講演会に参加させていただきました。市民の歴史への関心を高める良い資料だと思います。今後このようなイベントを開催して欲しいと思います。シンポジウムで話しがあった分冊版 是非とも検討

して欲しいです！あと、電子版もあればいいなあとも思いました。

（感想2）

「市史」を生きた市史とするために、編纂を機会とした本企画を組むこと自体にも熱い意欲が伺え、素晴らしいと思いました。

参考例のない市史が、わが町から出版されたこと、その時に、この町にいた事を誇りに幸せに思います。ありがとうございます。園田学園女子大学の「経験値教育」については、とても良い取り組みで丁寧に大江先生方が育てておられる事に敬意を表します。

（感想3）

時間を作って新しい気持ちで、市史を見直して読みます。

といった感想が寄せられました。

第2回は中世入門編・資料編講座として講師 市沢哲氏（神戸大学大学院人文学研究科教授）、樋口健太郎氏（龍谷大学文学部特任准教授）が7月8日（土）午後1時30分～4時30分にわたって行われる。第3回は近世・近現代入門編講座を岩城卓二氏（京都大学人文科学研究所准教授）、辻川敦氏（尼崎市立地域研究資料館長）の予定です。

Newsletter

園田学園女子大学 園田学園女子大学短期大学部 地域連携推進機構
〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7丁目29-1 TEL: 06-6429-9921 FAX: 06-6422-8523 E-mail: chiikirenkei@sonoda-u.ac.jp



園田学園女子大学

香美町サテライトスタジオ オープン!!



つなGirlコーナー

つなGirlと一緒に出かけよう！尼崎巡り♪



こんにちは。つなGirl 2回生のさのちゃんです！5月20日（土）、尼崎の魅力ある場所を巡り、尼崎について知ろう！を目的に、つなGirl主催「尼崎めぐり」を開催しました。今年は、児童教育学科3年生の留学生3名と、つなGirl14名で、阪急園田駅を起点に、「バックハウ イリエ」という特にクリームパンが美味しいと

有名なパン屋や、農業公園、田能資料館を巡り、とても楽しい一日となりました。購入したクリームパンを、農業公園でレジャーシートを広げピクニック気分でお食べしました。ふわふわのパンの中にとっぷりのクリームが入っていて、とても美味しかったです。これは本当にお勧めです！ぜひ食べてみてくださいね！食べた後は、農業公園では、留学生の故郷（韓国、中国）の流行の手遊びや、文化の会話で盛り上がりました。すぐに皆と打ち解け、留学生の方も楽しそうに話してくれました。また、バラが満開で、赤、黄、白など様々な色のバラが咲いていて、たくさん写真を撮りました。その後、田能資料館で勾玉作りを体験しました。講師の方々が丁寧に教えてくださり、正方形の石を勾玉の丸みを帯びた形になるまでひたすら削り、自分の好きな色に染めました。また、勾玉が作られていたとされる弥生時代や、園田学園女子大学の地下に眠る遺跡の説明をしていただきました。皆で驚いたり、会話を楽しんだりしていると、勾玉が完成するまでの3時間半が、とてもあっという間に感じました。家に飾っている勾玉を見る度に、あの時間を思い出します。とても良い思い出です。

2017年6月4日、兵庫県香美町小代区に本学サテライトスタジオが開設されました。小代区と本学は、交換留学生のホームステイ先など40年以上の交流があり、尼崎市と香美町（兵庫県北但馬地域）との都市交流の橋渡しともなってきました。今回のサテライトは、県が大学などと連携する地域創生拠点形成支援事業の一環として、民俗文化や高齢化地域の生活モデルの調査、研究拠点として活用されます。当日は川島明子学長、大江篤教授、野呂千鶴子教授が香美町へ訪問し、浜上勇人香美町長に面会したうえで午後のオープニング講演会に臨みま

した講演会では本学の大江教授による「地域の持続可能性に文化が果たす役割」と題した講演があり、本学の培ってきた地域志向研究、人材育成プログラムの蓄積や、民俗文化の研究が地域社会に果たす役割について語られました。また、人々が「当たり前」だと思っている生活文化を見直し、記憶を記録に残すことが継続可能な地域社会の構築につながるという指摘がありました。今後は学生とともに、但馬地域の歴史文化遺産や、高齢者のための生活環境モデルに関する調査、研究を進めていく予定です。そのうえで過疎化、高齢化といった問題を抱える多自然地域において、持続可能な地域社会を形成するためのプラットフォームとしての役割を担っていきます。

講演会には、小代区各自治会長、香美町関係者のほか、兵庫県企画県民部地域創生局から桑原弘信さま、大学による地域創生に応える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム協議会のCOC+主幹校である神戸大学から木村修二特命講師らが参加され、三十名の参加者がありました。参加者アンケートでは、「地域の文化、歴史に関心がわいた」「地域の伝統などを若い世代に積極的につないでいくことが大切だと思った」「研究のみで終わるのではなく解決策へつなげてほしい」「地域と学生とのコミュニティができればよい」「学生の新鮮な考えを取り入れて町を活性化したい」などの意見が寄せられました。



つながりプロジェクトの様子

つながりプロジェクトは、学部や学科の垣根を越え、将来の夢が混在する21のチームを編成します。

いろいろな夢や目標を持った学生たちが協力しながら尼崎市にある21の課題へ挑戦します。チームは様々な社会の人と協働して課題の解決を目指します。学生たちが地域で学び、経験し、失敗と成功を重ねて出した答えは課題を解決する糸口となります。見つけ出した答えから社会へ企画、提言を行います。

社会では様々な職種とのつながりが必要となっています。この学科横断型の授業で他の学科のものの見方を学ぶことは将来に役立ちます。

このつながりプロジェクトでの経験を通して、地域に貢献できる人間力の強い女性を育成します。

『地域に住む高齢者との運動交流プログラム～人つむぎ尼つむぎ～』

つながりプロジェクト5 担当：人間看護学科 林谷啓美



今年もお寺でリズム運動・筋力運動に取り組んでいます。

『男女共同参画の視点をもった防災・防犯を考える』

つながりプロジェクト11 担当：尼崎市女性センター・トレビエ 岩田さやか



女性の視点を活かした防災・防犯対策や、防災への女性の参画、女性や子どもなど多様性に配慮した避難所づくりを考えます。

『防災 Re:デザイン 一若者が参加したくなるような防災を考えよう』

つながりプロジェクト19 担当：龍谷大学政策学部 石原凌河



地域住民の方々と協働して築地地区の防災マップを作成している様子。

『庄下川環境を利用した地域住民の親水性の向上』

つながりプロジェクト4 担当：総合健康学科 衣笠治子



庄下川に行き、説明を受けているところです。このあと、水質調査を行いました。

『小学校でのプログラミング教育』

つながりプロジェクト7 担当：人間健康学部 難波宏司



小学生向けのロボット教材の操作練習および指導内容検討中の風景です。実際の指導は2学期以降に実施します。

『「笑育」で21世紀型スキルを磨く』

つながりプロジェクト16 担当：松竹芸能株式会社 宮島友香



お笑い芸人チキチキジョニーの漫才を活用した「笑育」の授業を終えて。

『尼崎の歴史・文化を世界に発信する』

つながりプロジェクト21 担当：日本学術振興会特別研究員 雪村加世子



連携先の尼崎あびす神社にて太田垣巨世宮司から神社にあるものの意味や、正しい参拝の方法などを教えていただいています。



地域志向教育研究

人間健康学部 人間看護学科 野呂千鶴子

災害伝承を活用した地域防災教育プログラム構築に関する研究

—歴史文化遺産としての民俗文化財の発掘—



本研究は、過去の災害にまつわる災害伝承や度重なる被災経験の記憶を、防災・減災という観点から効果的に抽出・評価することにより、地域防災・減災力強化する仕組みを構築することを目的としています。これを実現するために、伝承の収集やワークショップを通してデータを収集整理します。その上で、各地域の伝承を活用したクロスロードや防災マップの製作など、現地の実際に合わせる防災教育をデザインします。

平成28年度は、園田北地区でワークショップを実施しました。7月に地域課題を抽出するためのワークショップを実施しました。多くの課題が出されましたが、防災関連の課題は殆ど抽出されず、防災に関する意識が低い地域であることがわかりました。これは、この地区が猪名川流域とはいえ、盤石な土地であり、過去に大きな災害に遭ったことがないことが原因と思われます。次に、8月に防災マップづくりを実施しました。グループ毎の地図を集約しながら、聞き取り調査を実施しましたが、過去の災害の記憶をほとんど聞くことができませんでした。この成果をふまえ、1月に「園田北こども防災フェスティバル」を開催しました。小学校・中学校・高校の児童・生徒に参加を呼びかけ、大学生・地域住民の多世代が集まり、ゲームを通して防災を学びました。これまで

の園田北地区の防災訓練などでは、小・中・高校生の参加がみられず、この取り組みによって災害時に重要とされる地域住民のネットワークづくりに有効であることが明らかとなりました。

この他、11月には園田東地区の避難訓練に参加しました。今回は、段ボールを用いて避難所設営を行うという積極的参加型の訓練でした。避難後の「生活」を考え環境づくりを協働でおこなうことによって、避難所コミュニティづくりが促進されると考えられます。

平成29年度は、尼崎市内の災害伝承を収集、整理するとともに、防災教育プログラムのモデルを構築することを目指します。



地域志向教育研究

人間健康学部 総合健康学科 衣笠治子

庄下川の河川環境を利用した児童生徒のための親水プログラム

平成28年度は、庄下川での水質モニタリングを継続するとともに、8月末に小学生を対象とした庄下川自然観察会「庄下川でみつけた」を企画、実施しました。昨年度は尼崎市制100周年にあたり、この自然観察会は、連携先である尼崎市立衛生研究所の記念事業の一環として行ったものです。

水質モニタリングは前年度と同様、上生嶋橋から採取した表層水を試料とし、2016年2月から10月の期間で、原則週1回、計28回実施しました。水質検査項目の平均値は、DO 11.8mg/L、pH 8.9、COD 9.7mg/L、BOD2.8mg/L、透視度107.8cm、浮遊物質量5.5mg/L、一般細菌数は1.94×10²~1.3×10⁴cfu/ml、大腸菌群数は26~110MPN、大腸菌数8.0×10~1.9×10³MPNでした。尼崎市では、上生嶋橋より下流の尾浜大橋、波洲橋、庄下川橋で水質モニタリングを実施していますが、上生嶋橋の結果と大きな差はみられませんでした。

自然観察会は、昨年度にプログラム化

した研修内容を受講した学生ボランティアリーダー22名、児童参加者は15名で実施しました。内容は、気温、水温、COD、濁度、pHの測定、その後3グループに分かれて、植物、水生生物、プランクトンを観察しました。植物は、河川敷で採集、水生生物は、前日から仕掛けておいたトラップを回収し、捕獲できたものを観察し、プランクトンは、顕微鏡で観察しました。動植物は、スケッチや、写真を撮り、図鑑やインターネットを用いて、名前を調べました。最後に、児童たちが写した写真やスケッチ、調べたことをもとに、ポスターを作製し、グループごとに10分程度の発表をしてもらいました。

当日の参加児童および、学生ボランティアリーダーに対するアンケートと自然観察会中の音声进行分析した結果、学生ボランティアリーダーの研修内容にとりいれた、子どもへの声掛けの手法や植物遊びの体験が観察を進めていくのに効果があったようです。

